

第1回補助金評価委員会議事録（議事要旨）

1. **開催日時** 平成30年5月31日（木） 午後1時15分～午後3時00分

2. **開催場所** 浦安市 文化会館 第1会議室

3. **出席者**

（委員）

下田 直樹 委員長、平 光正 副委員長、加藤 俊介 委員、泉澤 栄一 委員、
和田 芳明 委員、北山 左絵子 委員

（事務局）

高橋 豊文 財務部長、海老沢 伸夫 財務部参事、澤田 勉 財務部次長、
小嶋 哲夫 財政課長、久我 真弘 課長補佐、関口 正敬 係長、
大久保 弘毅 主任主事

4. **欠席者**

菅原 百合子 委員

5. **議題**

- (1) 浦安市補助金評価委員会について
- (2) 補助金の評価対象、評価方法について
- (3) その他

6. **議事の概要**

- (1) 浦安市補助金評価委員会について

委員の互選により、下田委員が委員長に選任され、平委員が副委員長に選任された。

会議の概要、浦安市の財政状況、補助金について事務局より説明が行われた。

- (2) 補助金の評価対象、評価方法について

対象となる補助金について事務局より説明が行われ、評価方法についての質疑が行われた。第2回委員会では5つの補助金について審議を行ってほしい旨、説明があった。

- (3) その他

次回会議の開催は平成30年6月28日（木）と決定した。

7. **会議経過**

委員長が選出されるまでの間、高橋財務部長が議長を務め、委員長の選出が行われた。委員の推薦により、満場一致にて下田委員が委員長に、平委員が副委員長に選任された。

「会議の概要」、「浦安市の財政状況」、「補助金について」、「補助金の評価対象、評価方法について」「今後のスケジュール」について事務局より報告を行い、それぞれ質問、ご意見をいただいた。

《浦安市補助金評価委員会についての質疑》

委員：委員はどんな作業があるのか、予め具体的な作業を教えてください。

委員長：全5回の会議の中で補助金の評価を行い、結論を出したうえで市長に提言する。詳細は事務局から報告される。

委員：今後全5回の全体像が不明瞭である。毎回の進捗を市長に報告するのか。

委員長：毎回の進捗、次回の予定を確認しながら進めていく。

委員：来年度の予算に反映させる必要があるのではないか。

委員長：そのために9月が最終の会議となっている。

《補助金の評価対象、評価方法について事務局からの説明》

事務局：次回の会議で議論される5つの補助金について次回の会議までに確認し、質疑を考慮しておいていただきたい。質問、意見等あれば開催日の15日前までに事務局に言っていただければ資料を用意する。また、担当課が作成したチェックシートの電子データも事務局から送付する予定である。選出された15個以外の補助金に対する評価はどのようにしていくかは現在事務局で検討中である。

《補助金の評価対象、評価方法についての質疑》

委員：全ての補助金を評価するのは難しいが、15個の選出の基準はどのようにしたのか。

事務局：初回、最終回を除く3回の審議でこなせる数として15個とした。事前に評価している担当課と財政課評価で意見に相違があるものや課題があるものを特に抽出している。

委員：市民にとって身近でない補助金が対象になっているが、身近でない補助金を対象にしている理由を知りたい。

事務局：審議できるものはどうしても一部になってしまうので他の事業に関しても見ていただき、見直しをしたいものがあればご提案いただきたい。

委員：市民生活を考えて補助金を減額した方がいいものや逆に増額した方がいいものを提案してもいいか。

事務局：増額する補助金があってもよい。それも踏まえてのちに議論していきたい。

委員：金額の多寡や市民の満足度などをパターン化し、それを基に分析すべきである。15個に限定してしまうと横断的な評価がしにくいのではないか。

事務局：カテゴリーでの分類も考えたが、今後の継続性についての評価を重視したいと考えている。一次評価での今後の継続性の評価には主観的な点があるため、この委員会で客観的な評価をしてほしい。

委員：評価基準に費用対効果の観点が入っているか。

事務局：評価基準の一つに効率性がある。

委員：市が行った場合の金額を基準の一つにしてもいいのではないか。

事務局：そのような評価項目を追加することも検討する。

委員：評価対象となっている補助金は、各担当課から一つずつ選ばれているのか。

事務局：必ず各担当課から一つずつというよりは、偏りの無いようにした上で課題のある補助金を選んだ。

委員：担当課と財政課での意見の相違や、補助金の課題をもとに選ばれたということだが、やはり選出の基準があいまいである。15個の補助金の個別評価では他の案件も含め

た普遍的な評価は難しいのではないか。初めから15個に絞るのではなくもう少し増やしたリストから選ぶべきではないか。

委員長：今回選出された15個は削減や廃止を前提に選ばれたわけではなく、限られた時間の中で見直しをするため重要だと思われるものを選んだ。

委員：財政課の選出理由を記載するようにしていただきたい。

委員：パターン化の意見は良いと思うが、初めからパターンを出すのは難しい。個別に15個の補助金の評価を行った後に、最終的にパターンが見え、それをその他の補助金の評価に活用できればいいのではないか。

委員：パターンごとに選ぶのであればこういったパターンの代表例として選んだのかというコメントをしていただきたい。

委員：以前の提言書との紐づけがわからない。今回の委員会でも前回の提言書の内容を踏まえて評価方法に含めるべきではないか。

事務局：前回の提言書から現在の課題を考えたとえで改訂されたのが今回の提言書になっている。

委員：新旧の提言書の比較をしたものを頂きたい。

委員：時間が限られているので、選出された補助金についての課題を明確に示していただきたい。選出理由が曖昧だと議論が繰り返しになってしまう。

事務局：毎回の議論の結果を踏まえ繰り返しにはならないように進めていく。

委員長：評価対象以外の補助金に関しては評価方法を委員長と事務局に一任していただきたい。

事務局：次回までに改めて評価対象となる補助金の選出理由をお知らせし、次回からは補助金の評価に進みたい。

委員：選出理由は次回までにメール等で示していただき、その説明に不整合があるかどうか委員が判断するのはどうか。問題がないのならばそのまま行う、問題があるならばその点に関してだけ次回議論すればよいのではないか。

委員：次回は分かりやすい5個の補助金を議論するのが良いかと思われる。

委員：挙げられている15個の中でもパターン化ができるかと思うので、担当課や分野ごとに審議していくのがいいと思う。

事務局：パターンで括れるものは括って全3回の審議で収まるように調整する。次回は5つの補助金を審議していく。次回対象となる補助金やチェックシートをメールで送信するので次回までに考えてきていただきたい。